

金農が目指す5年後の姿（中期ビジョン）

～ 令和3年度から令和7年度まで ～

秋田県立金足農業高等学校

① 学校の現状や課題

本県農業の将来を見据え、農業のグローバル化、ICTを活用したスマート農業化等に対応した環境整備が求められている。本県を代表する農業高校として、農業を取り巻く社会的環境変化に柔軟に対応することができる、地域の農業や農業関連産業を支える人材の育成を目指す。一方、非農家家庭の生徒が90%を超えており、生徒に対し実習などの授業を通して農業を学ぶことの明確な目的意識をもたせる必要がある。

また、いのちの大切さに直接触れる農業実習や、課題研究活動、地域との交流活動を通して育まれる人間性やコミュニケーション能力、問題解決能力を、将来の進路選択にさらに生かすための方策を検討していく。

地域や県民の信頼と期待に応えるため、農業教育を一層充実させるとともに、スポーツ金農として文武両道を実践しながら、魅力的で特色ある学校づくりを行う。

② 学校を取り巻く将来の状況の予測

(1) 近隣の中学校卒業生数と地区内の高校への入学者数の予測

少子化が進む中で、本校で身に付けた技術や技能によって、地域産業を担い、地域に貢献する人材の育成が一層望まれる。

秋田地区	令和2年	2,549名	令和7年	2,445名(104人減)
男鹿潟上南秋地区	令和2年	627名	令和7年	466名(161人減)

(2) 社会情勢

農業を取り巻く情勢が大きく変化する中で、これまで以上に食の安全・安心・安定的な生産が望まれるとともに、農業従事者の高齢化や地方の人口減少問題により、日本の農業あるいは農業教育への関心や期待がより高まることが予想される。より安全で生産性の高い農産物生産と、効率的な流通の在り方、県産品を世界にアピールできる加工品の開発などが、今後求められてくると思われる。そのため、魅力的な特色ある農業教育の充実を図るためのカリキュラム編成を常に検討していかなければならない。

③ 目指す生徒像及び学校像

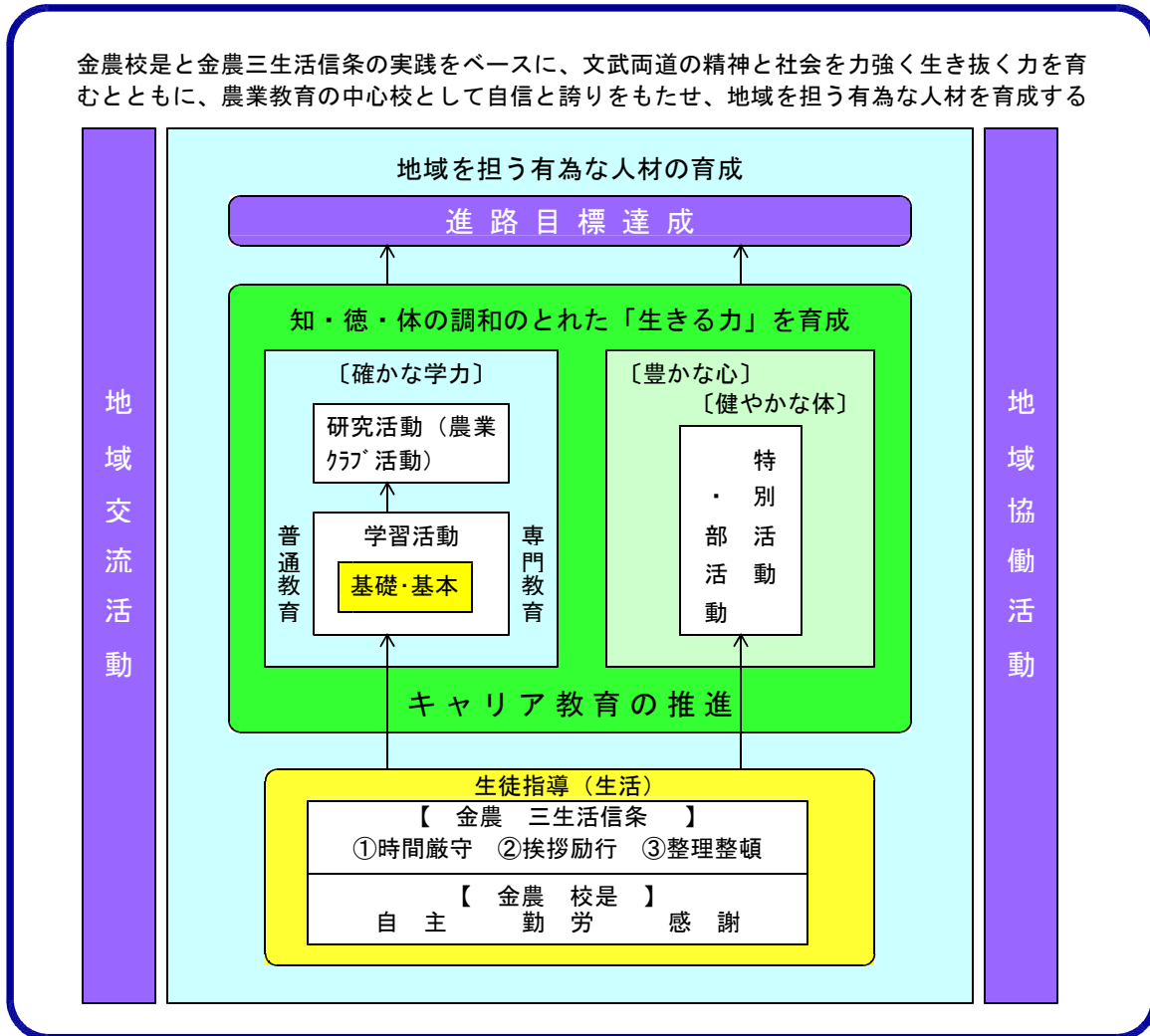
(1) 目指す生徒像

- ① 将来を見据えて高い志をもって学習に取り組む金農生
- ② 積極的に農業クラブ・生徒会活動や研究活動に励む金農生
- ③ 夢中になって部活動に打ち込む金農生
- ④ 明るく思いやりをもって地域に生きる金農生
- ⑤ 秋田を支え、秋田を元気にする金農生

(2) 目指す学校像

- ① 農業教育の中心校として、地域や県民の信頼と期待に応えるため、農業教育を一層充実させ、文武両道を実践しながら魅力的で特色ある学校づくりを推進する。
- ② 本県の農業を基盤とし農業や関連産業及び生活・福祉に関わるスペシャリストとして地域社会に貢献できる人材を育成する。
- ③ 先進的な農業教育を通して豊かな人間性を育成するとともに、持続可能な循環型社会の実現に向けて、積極的にその役割を果たす人材を育成する。
- ④ キャリア教育の視点に立って社会的・職業的に自立した人間力や様々な課題に他と協働して立ち向かう実践力を育成するとともに、高い志を育てる教育活動を推進する。
- ⑤ 地域に根ざした高校として、地域と連携を図るとともに、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開し、信頼される開かれた学校づくりを推進する。

<生徒育成の指針>



④ 5年間で達成を目指す具体的目標

国公立4年制大学進学率	→ 進学者の10%以上
専門性を生かした私立4年制大学進学率	→ 進学者の10%以上
県内就職率	→ 就職者の85%以上
1ヵ年皆勤者数	→ 在籍者の50%以上
部活動加入率	→ 100%
一人3資格以上の資格取得者数	→ 3年生の90%以上
東北大会への出場部活動数	→ 8以上
全国大会への出場部活動数	→ 6以上
農業クラブ全国大会入賞者数	→ 優秀賞3部門以上

具体的な取組等

1 基本的な生活習慣の確立と社会性の育成

- (1) 生徒一人一人の個性の伸長を図りながら、主体的に自己実現を目指そうとする自己理解・自己管理能力を身に付けさせる。
- (2) 金農校是と金農三生活信条の実践により、社会人としての基本的なマナーを身に付けさせる。
- (3) 道德教育の推進により、善悪に対する判断力と規範意識や遵法精神を育成する。
- (4) 地域への貢献や交流活動を通して、心身の成長を促し社会性を身に付けさせる。
- (5) 「アフター10運動」推進により、スマートフォン・携帯電話等の使い方に関する指導の充実を図る。

2 キャリア教育の視点に立った確かな学力の育成と進路目標の達成

- (1) 魅力ある授業の確立を目指すため、教師の力量を高める研修の充実を図るとともに、ICT機器の積極的な活用を推進する。
- (2) 高い進路目標や課題を設定し、自ら解決しようとする自主的な学習態度を育成する。
- (3) 家庭学習の習慣化を図るため、適切な課題に取り組みさせる。
- (4) 3年間を見据えた進路指導と組織的な指導体制の充実を図る。
- (5) 社会的・職業的自立に向けて、インターンシップの充実を含めたキャリア教育を推進する。

3 専門教育の深化と充実

- (1) 地域が抱える課題について、生徒自らが分析し、解決するための手だてについて考え実践し、課題解決のプロジェクトに取り組む姿勢を身に付ける。
- (2) 専門性を深化させる課題研究等を充実させ、GAP教育や文科省指定事業に取り組み、先進的な農業技術の導入に向けた農業教育の充実を図り、高い視点での進路実現につなげる。
- (3) 高大連携などの教育機関や企業等との連携により、地域貢献や商品開発を目的とした教育活動の充実を図る。
- (4) 資格取得を推奨し、一般的な資格と各学科の専門性を生かした高いレベルの資格取得を支援する。
- (5) 「金農めぐり交流館」の活用により、地域に根ざした教育に努める。
- (6) 地域との協働による高等学校教育改革推進事業の推進により、専門教育の深化と充実を図る。
*GAPとは、農業において食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための「生産工程管理」の取組のことです。

4 部活動の強化と充実

- (1) 文武両道を実践し、目標を高く掲げ、生徒の能力を最大限に伸ばすことができるように支援する。
- (2) 仲間を思いやる気持ちや、共に助け合い励まし合う心を育成する。
- (3) 生徒の人格や人権を尊重し、信頼関係の構築を図るとともに、健康や安全に留意した指導を行う。
- (4) 運動部に強化部を指定し、部活動の施設設備の充実を図り全国大会上位入賞を目指す。

5 安全で安心な学校づくりの推進

- (1) いじめの根絶の指導、悩みを抱える生徒等への支援の充実を図る。
- (2) 防災教育を推進し、生徒の具体的な対応能力の向上を図る。
- (3) 災害時の避難所運営など、地域社会と連携した防災対策の充実を図る。
- (4) 平常から学校施設設備の点検を行い、生徒が安心して学習できる環境整備に取り組む。
- (5) 教員の不祥事防止について、日ごろから研修に取り組み地域から信頼される学校づくりを進める。
- (6) 感染症対策等に万全を期し、生徒と職員の健康維持に努める。

6 学校改革の推進と学校組織の活性化

- (1) PDCAサイクルの組織マネジメントによる学校経営の改革を推進する。
- (2) 「あきた型学校評価」を充実させる。
- (3) 学校ホームページの更新を定期的に行い、掲載内容の充実を図る。
- (4) 校舎改築基本構想に基づいて新しい農業教育のあり方を模索し、魅力的な学校づくりを目指す。